

# 月影

平成十六年四月五日発行 (第五号)

紫雲山 常林院

## 邦楽綴

ほうらくつづり  
はる ひがん お  
春のお彼岸が終わりました。

こんかい ほうわ か  
今回は法話の代わりに、尺八、三味線等の  
えんそうかい もよお  
演奏会を催しました。当日は多くの方に  
とうじつ おおく かた  
お越し頂きました。誠に有難うございました

こ いただ  
お越し頂きまして、誠に有難うございました  
まこと ありがと  
た。これからも皆様のお寺として、お気軽に  
こ いただ おも  
お越し頂けたらと思います。

ところで、「寺」という字は、「土」と「寸」二つの漢字から成り立っ  
ています。  
ちよつと すこ  
「一寸(少し)の土」という意味です。一寸の土というのは、靴の

うら つち  
裏についた土のことです。つまり、お寺という所は、お墓参りや行事  
ひとびと たら あし はこ つど あ な た  
など人々が寺に足を運び、集い合うことで成り立っていることを表し  
ています。 あらわ

## 花まつり

はな  
しがつまつりか  
四月八日は、お釈迦様のお誕生日です。花で飾られたお堂の真ん中  
しやか さま おたんじょうび はな かざ  
に生まれたばかりのお釈迦様が立たれ、右手で天を指し、左手で地を指  
しやかさま た みぎて てん さ ひだりて ち さ  
に



しておられます。そのお釈迦様の像に甘茶をかけてお祝いいたします。  
いま にせんろつびやくねんまえ しがつようか しやかさま う ななほ  
今から二千六百年前の四月八日に、お釈迦様は生まれるやいなや、七歩  
あゆ てんじょうてんげゆいがどくそん たんじょう  
歩まれて「天上天下唯我独尊」とおっしゃられました。そして、ご誕生  
いわ りゅう そら かんろ あめ ふ  
をお祝いして竜は空から甘露の雨を降らせたといわれます。  
てんじょうてんげゆいがどくそん  
「天上天下唯我独尊」とは、だれもがたった一つの尊い生命をいただ  
いていという、いのち とうと おも い ことば  
いているという、生命の尊さと重さを言っている言葉です。

じょうりんいん しがつようか もく はな ほうよう ごんしゅう  
常林院も四月八日（木）に花まつり法要を厳修いたします。午前中の  
ほうよう ごえいか あと ごこ  
法要と御詠歌の後、午後から  
じょうりんいんほんどうまえ しやかさま  
常林院本堂前に、お釈迦様の  
たんじょうぶつ じゅう かざ  
誕生仏のお堂をお飾りいたします。  
きがる あまちゃ くだ  
どうぞお気軽に甘茶をおかけ下さい。



## さくら

とうじ さくら  
当寺の桜もささやかながらライトアップをいたします。  
ことし さくら えだ きよねん ふ すこ しんばい  
今年のしだれ桜はつぼみがついていない枝が去年より増え、少し心配  
いたしております。

いちじ しがなか みた ちか ぶ  
◎日時 四月七日（水）〜十日（土）

ゆうぐ くじごろ  
夕暮れより九時頃まで